

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901779		
法人名	有限会社 パートナーステーション		
事業所名	グループホーム 和が家 ななかまど		
所在地	北海道旭川市春光台5条3丁目7-24		
自己評価作成日	H28年7月18日	評価結果市町村受理日	平成28年8月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901779-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901779-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が快適に生活を送って頂ける様にホーム内のスペースを状況に応じて工夫したり、室外でも花壇を整備したり、テントやベンチを設置し他の入居者様や地域の方と楽しんでいただいたり、ふれあいが出来る様に配慮している。周囲は鷹栖の田園風景やしらかば並木を眺めることができ、自然豊かな高台で「ゆったりとした生活」を実現出来る様力を入れている。  
また畑作りが出来る環境を整えるようにしている。  
「和が家」が地域の中で連携・交流出来る様に、また家族との連携や意見を頂くことで「和が家の生活」がより良いものになるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

安心して暮らせる支えあいの地域づくりを掲げて、開設13年目の2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。  
地域の人々に向けて認知症サポーター養成講座の開催や困りごとへの助言、相談等の支援で認知症の人の理解や支援の方法を地域に発信している。また、地域住民に向けて事業所主催のお祭りやクリスマス会等の行事への参加を呼びかけたり、町内会と共催のお祭り開催、地域ボランティアの協力を得るなど地域との交流や連携に努めている。  
一人ひとりの力やその日の希望に沿って、初詣や冬祭り見物、花見やドライブ等で戸外に出かけられるように支援したり、歌唱やボール投げ等のレクリエーションの充実を図りながら一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望に沿って支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある			<input type="radio"/>	3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げており毎日朝の申し送り時に唱和している	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を掲げ、朝の申し送り時に唱和して理念を共有し、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での催し物や清掃等参加できるようにしている	地域の人々に向けて認知症サポーター養成講座の開催や困りごとへの助言、相談等の支援で認知症の人の理解や支援の方法を地域に発信している。また、地域住民に向けてお祭りやクリスマス会等の行事への参加を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座等を開いている、また入居相談などで認知症介護のアドバイスも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており、現状やサービス内容の報告を行い、意見を頂いている。また行事や避難訓練の様子なども見ていただいている。	運営推進会議を定期的開催して、事業所の取り組み状況や火災避難訓練等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの方に参加いただくなど互いに協力できる体制を築けるようにしている	包括支援センターや市民委員会、町内会等の関係団体と情報交換をしながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないよう注意を払い、身体拘束関する研修にも参加、報告し資料の配布・回覧をしている また身体拘束を疑われるものはその都度話し合い検討している	内部・外部の身体拘束廃止や高齢者虐待防止の研修会に参加して、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加、報告し資料の配布・回覧を行った り、家族にも意見を頂き防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加、報告し資料の配布・回覧を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては一つ一つ説明を行い、不安や疑問点を尋ねながら理解・納得を図っている またその後も疑問点等あればお答えし、改定の際も疑問点等の確認を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を発足しており、運営推進会議に参加いただき意見や要望を頂いている	家族会を開催して苦情や要望等を言い表す機会を設けている。また、家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるよう意見箱を設置して、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議等の会議の場で意見や提案を聞く機会を設けている	定期的な個人面談の実施やリーダー会議、全体会議を通じて職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善に向けての体制作りや環境整備に取り組み、個別の面談も行っている 運営指針や経営方針の説明も行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実際のある場を見たり、リーダーから聞き取りし職員の力量を把握して研修時には本人の希望と判断にて参加をすすめている リーダーを通してトレーニング出来る様指導している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修や互いの活動に参加し交流を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各ユニットのリーダーや部屋の担当者が中心になり、職員全員で本人の不安の解消と要望を聞けるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各ユニットのリーダーや部屋の担当者が中心になり、電話や面会時に家族の不安の解消と要望を聞けるように努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリングを行い、記録し必要な支援が発生したときにはいつでも変更できるようにしている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のできることを見極めできることをしていただくようにしている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化があればその都度連絡し、毎月の新聞でも生活の様子などの情報提供をしている 面会時には意見を頂いたりこちらからの提案を話したりしている 交流の場も年に数回、開催している			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方のなじみの場所にドライブに出かけた り、なじみのある行事に出かけるようにしている	お祭りや清掃事業等の地域の行事参加、初詣や冬祭り見物などで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人にならないように間に入ったり声を掛けたり、入居者同士の関係性に配慮し座る位置を工夫している			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に入居されていた事からの縁を大切にしながらもつながりを持って連絡をいただける方もいらっしゃるし、必要に応じ相談や支援を行っている			
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から雑談等で本人の言動に注目し耳を傾けるようにして介護計画書に反映出来る様になっている 毎月の会議でも検討している	一人ひとりの生活歴の把握やモニタリングの実施等で暮らし方の希望や意向を把握し、本人本位に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得られるよう普段から情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握しその方にあった過ごし方を支援出来る様に努めている 体力や身体状況にあった支援を心掛けている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話し合いの場を作り、職員全員でモニタリングを行い、それぞれの意見を反映させ、現状に合わせた介護計画を作成している	本人、家族の意向や要望、医師及び看護師からの指導や助言、全体会議やモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを記録に残すようにしている 情報の共有は申し送りや暮らしの日記に記録するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に必要な補助器具やサービス、介助方法を定期的に話し合い、本人・家族と共に職員全員で取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事や環境整備への参加、地域でボランティア活動をされている方に行事の時に来て頂いたりしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては個々で自由に行っている 必要時は協力医療機関紹介しているが、本人・家族の希望のかかりつけ医を継続されている方もおられる	往診や通院への支援、日常の健康管理で適切な医療を受けられるようにしている。また、受診は、本人・家族の希望するかかりつけ医になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康チェック時に看護師に報告している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は医師から説明を受けるようにしており、定期的に連絡をする様にしている、また退院時にも説明を受けるようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期には家族が納得のいくように話し合いの場を持ったり、医師と家族の話し合いの場を調整している	ターミナルケアを実践しており、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら、職員間で指針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者個々の身体状況・状態把握を行い、状態悪化時には主治医に指示を仰いでいる 応急手当の勉強会も不定期ではあるが全体会議等で行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、消防の方にアドバイスを頂いている 地域の方に協力して頂けるよう地域行事への参加等心掛けている	消防署の協力を得て年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、地域との協力関係も構築している。また、ホーム内には防犯防災設備、避難設備が設けられている。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や状態を見極め会話している 言葉遣いにも気を配るようにしている	内部研修会を開催して、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している。	今後はさらに、接遇研修会への参加や職員への周知の徹底を計画しているので、その実践に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を出来るだけ聞くようにして、選択して頂ける様配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	出来るだけ希望にあわう形で日中の行動を決めていただいている 空いた時間には「なんかしないの」と声を掛けていただいたりして希望を聞きレクリエーションをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の時には服を選んでいただいたり、身だしなみに気を配っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の好き嫌いや食事形態を考慮し提供し、出来ることをして頂いている	身体機能の低下で食事介助が多く見られるが、一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の準備や配膳、下膳等職員と一緒に出来るよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いやその時の状態に合わせて食べられない時には違うものを提供している 水分に関しても好みに合わせて提供し、状態に合わせてトロミを使用したりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自らできる方は見守りにて頂き、介助が必要な方には歯ブラシや舌ブラシ、スポンジを使用して口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方にあわせ汚染が無い様に声掛けを行っている 全介助の方にはその時の状態に合わせてトイレ誘導を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンを把握しながら、声かけや誘導等でトイレでの排泄や排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を提供したり食事のメニューに気をつけている 体操やレクリエーションも行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回入浴して頂いている 希望も聞きその方に合わせた入浴方法を心掛けている	身体状況に合わせて浴槽を改築し、本人の希望やタイミング、生活習慣に応じて、週2回を目安に個々に沿った柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて休んでいただいている 夜間の入床時間に関しても希望を聞いたりその時の状態に合わせて休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方になった場合は処方を確認した上で服薬して頂いている 服薬してからの状態経過を観察し主治医に報告している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることをして頂き役割を持っていただいている 外出等で気分転換をしていただいたりレクリエーション等を楽しんでいただいている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞き出かけるようにしている その方の喜ばれるところを考え出かけている	一人ひとりの力やその日の希望に沿って、初詣や冬祭り見物、花見やドライブ等で戸外に出かけられるように支援している。また、歌唱やボール投げ等のレクリエーションの充実を図り、その日をどのように過ごしたいか把握して希望に沿って支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方にはお金を持っていたり希望される方にはお小遣い程度のお金を持っていただくようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしていただいたり、手紙を書いていただく企画をしたりしている 本人宛の電話が着た際には取り次いでいる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすい配置を心がけ、その時の状態に合わせて配置を換えられえらるようになっている 掲示物も季節感のある物を心掛けている	共用空間からは、新緑や紅葉等の四季折々の景色が眺められたり、季節毎の飾りつけや生活感を採り入れて本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、共用空間は、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自が居心地の良い空間になるよう配慮し声を掛けたりしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものや大切なものを置いて頂ける様に、本人や家族と相談している 温度調整や換気にも気をつけている	居室の温度、湿度の環境に配慮しながら、使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	その方のできることにあわせ物の配置を考えている 移動しやすいスペースにも配慮している 個人で出来ることやみんなで出来ることを見極めそれぞれが自立した生活を送れるように工夫している		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム和が家 ななかまど

作成日: 平成 28年 8月 8日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	36	個人の性格や状態を見極め会話し、言葉遣いにも気を配るようにしているがあわただしい時に言葉使いが荒くなったり、気を抜いた時に利用者様に対する言葉遣いでは無い言葉になってしまっている時がある	あわただしい時や気を抜いてしまった時にも相手を尊重した言葉使いを心掛ける	接遇研修への参加・周知やその場その場でお互いに声を掛け修正できる関係を作っていく	1年
2	27	気付きを記録に残すようにしているが少なく、情報の共有は申し送りや暮らしの日誌に記録するようにしているが抜けている事もある	普段との少しの違いでも記録していくようにする、特に重要な情報については抜けることの無い様にしていく	普段から少しの違いでも話し合い、記録するようにお互い確認できるように話していく	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901779		
法人名	有限会社 パートナーステーション		
事業所名	グループホーム 和が家 しらかば		
所在地	北海道旭川市春光台5条3丁目7-24		
自己評価作成日	H28年7月18日	評価結果市町村受理日	平成28年8月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901779-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901779-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が快適に生活を送って頂ける様にホーム内のスペースを状況に応じて工夫したり、室外でも花壇を整備したり、テントやベンチを設置し他の入居者様や地域の方と楽しんでいただいたり、ふれあいが出来る様に配慮している。周囲は鷹栖の田園風景やしらかば並木を眺めることができ、自然豊かな高台で「ゆったりとした生活」を実現出来る様力を入れている。  
また畑作りが出来る環境を整えるようにしている。  
「和が家」が地域の中で連携・交流出来る様に、また家族との連携や意見を頂くことで「和が家の生活」がより良いものになるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げており毎日朝の申し送り時に唱和している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での催し物や清掃等参加できるようにしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座等を開いている、また入居相談などで認知症介護のアドバイスも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており、現状やサービス内容の報告を行い、意見を頂いている。また行事や避難訓練の様子なども見ていただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの方に参加いただくなど互いに協力できる体制を築けるようにしている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないよう注意を払い、身体拘束に関する研修にも参加、報告し資料の配布・回覧をしている また身体拘束を疑われるものはその都度話し合い検討している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加、報告し資料の配布・回覧を行った り、家族にも意見を頂き防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加、報告し資料の配布・回覧を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては一つ一つ説明を行い、不安や疑問点を尋ねながら理解・納得を図っている またその後も疑問点等あればお答えし、改定の際も疑問点等の確認を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を発足しており、運営推進会議に参加いただき意見や要望を頂いている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議等の会議の場で意見や提案を聞く機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善に向けての体制作りや環境整備に取り組み、個別の面談も行っている 運営指針や経営方針の説明も行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実際のある場を見たり、リーダーから聞き取りし職員の力量を把握して研修時には本人の希望と判断にて参加をすすめている リーダーを通してトレーニング出来る様指導している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修や互いの活動に参加し交流を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各ユニットのリーダーや部屋の担当者が中心になり、職員全員で本人の不安の解消と要望を聞けるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各ユニットのリーダーや部屋の担当者が中心になり、電話や面会時に家族の不安の解消と要望を聞けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリングを行い、記録し必要な支援が発生したときにはいつでも変更できるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のできることを見極めできることをしていただくようにしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化があればその都度連絡し、毎月の新聞でも生活の様子などの情報提供をしている 面会時には意見を頂いたりこちらからの提案を話したりしている 交流の場も年に数回、開催している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方のなじみの場所にドライブに出かけたり、なじみのある行事に出かけるようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人にならないように間に入ったり声を掛けたり、入居者同士の関係性に配慮し座る位置を工夫している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に入居されていた事からの縁を大切にしながら、今もつながりを持って連絡をいただける方もいらっしゃるし、必要に応じ相談や支援を行っている		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から雑談等で本人の言動に注目し耳を傾けるようにして介護計画書に反映出来る様になっている 毎月の会議でも検討している		
----	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得られるよう普段から情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握しその方にあった過ごし方を支援出来る様に努めている 体力や身体状況にあった支援を心掛けている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話し合いの場を作り、職員全員でモニタリングを行い、それぞれの意見を反映させ、現状に合わせた介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを記録に残すようにしている 情報の共有は申し送りや暮らしの日記に記録するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に必要な補助器具やサービス、介助方法を定期的に話し合い、本人・家族と共に職員全員で取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事や環境整備への参加、地域でボランティア活動をされている方に行事の時に来て頂いたりしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては個々で自由に行っている 必要時は協力医療機関紹介しているが、本人・家族の希望のかかりつけ医を継続されている方もおられる		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康チェック時に看護師に報告している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は医師から説明を受けるようにしており、定期的に連絡をする様にしている、また退院時にも説明を受けるようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期には家族が納得のいくように話し合いの場を持ったり、医師と家族の話し合いの場を調整している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者個々の身体状況・状態把握を行い、状態悪化時には主治医に指示を仰いでいる 応急手当の勉強会も不定期ではあるが全体会議等で行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、消防の方にアドバイスを頂いている 地域の方に協力して頂けるよう地域行事への参加等心掛けている		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や状態を見極め会話している 言葉遣いにも気を配るようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を出来るだけ聞くようにして、選択して頂ける様配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	出来るだけ希望にあわう形で日中の行動を決めていただいている 空いた時間には「なんかしないの」と声を掛けていただいたりして希望を聞きレクリエーションをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の時には服を選んでいただいたり、身だしなみに気を配っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の好き嫌いや食事形態を考慮し提供し、出来ることをして頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いやその時の状態に合わせて食べられない時には違うものを提供している 水分に関しても好みに合わせて提供し、状態に合わせてトロミを使用したりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自らできる方は見守りにて頂き、介助が必要な方には歯ブラシや舌ブラシ、スポンジを使用して口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方にあわせ汚染が無い様に声掛けを行っている 全介助の方にはそのときの状態に合わせてトイレ誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を提供したり食事のメニューに気をつけている 体操やレクリエーションも行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回入浴して頂いている 希望も聞きその方に合わせた入浴方法を心掛けている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて休んでいただいている 夜間の入床時間に関しても希望を聞いたりその時の状態に合わせて休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方になった場合は処方を確認した上で服薬して頂いている 服薬してからの状態経過を観察し主治医に報告している		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることをして頂き役割を持っていただいている 外出等で気分転換をしていただいたりレクリエーション等を楽しんでいただいている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞き出かけるようにしている その方の喜ばれるところを考え出かけている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方にはお金を持っていたり希望される方にはお小遣い程度のお金を持っていたりするようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしていただいたり、手紙を書いていただく企画をしたりしている 本人宛の電話が着た際には取り次いでいる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすい配置を心がけ、その時の状態に合わせ配置を換えられえようようにしている 掲示物も季節感のある物を心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自が居心地の良い空間になるよう配慮し声を掛けたりしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものや大切なものを置いて頂ける様に、本人や家族と相談している 温度調整や換気にも気をつけている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	その方のできることにあわせ物の配置を考えている 移動しやすいスペースにも配慮している 個人で出来ることやみんなで作れることを見極めそれぞれが自立した生活を送れるように工夫している		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム和が家しらかば

作成日: 平成 28年 8月 8日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	36	個人の性格や状態を見極め会話し、言葉遣いにも気を配るようにしているがあわただしい時に言葉使いが荒くなったり、気を抜いた時に利用者様に対する言葉遣いでは無い言葉になってしまっている時がある	あわただしい時や気を抜いてしまった時にも相手を尊重した言葉使いを心掛ける	接遇研修への参加・周知やその場その場でお互いに声を掛け修正できる関係を作っていく	1年
2	27	気付きを記録に残すようにしているが少なく、情報の共有は申し送りや暮らしの日誌に記録するようにしているが抜けている事もある	普段との少しの違いでも記録していくようにする、特に重要な情報については抜けることの無い様にしていく	普段から少しの違いでも話し合い、記録するようにお互い確認できるように話していく	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。